

令和5年第12回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和5年12月20日(水)
午後3時00分～午後4時0分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
- | | |
|---------------|-----------|
| 教 育 長 | 新 子 寿 一 |
| 教 育 長 職 務 代 理 | 田 中 保 和 |
| 委 員 | 近 藤 温 子 |
| 委 員 | 西 村 弥 生 子 |
| 委 員 | 太 田 貴 之 |
4. 出席した職員
- | | |
|-----------------|---------|
| 教 育 部 長 | 桐 藤 英 樹 |
| 教 育 監 | 中 平 好 美 |
| ス ポ ー ツ 推 進 課 | 磯 部 賢 二 |
| 教 育 総 務 課 長 | 栗 田 聖 子 |
| 指 導 課 長 | 小 室 吉 昭 |
| 事 務 局 教 育 総 務 課 | 塩 谷 行 由 |

5. 議事案件

議案第36号 令和5年度中学生チャレンジテスト(3年生)の結果の公表内容について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長：それでは、令和5年第12回定例教育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、太田委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員：なし。

新子教育長：それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入っております。本日の議事案件は1件です。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは、議案の審議に入っております。議案第36号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第36号令和5年度中学生チャレンジテスト(3年生)の結果の公表内容について説明させていただきます。別添の冊子をご覧ください。まず表紙をめくったと

ころは調査目的および調査概要になっております。5教科のテストが行われ、今年度アンケートは、中3のみ紙のアンケートとなっており、中1・2年についてはタブレットを活用したオンラインアンケートとなります。中3についても次年度より、オンラインによるアンケートとなります。問題や解答は大阪府教育庁のホームページにアップロードされており、そのアドレスは下に記しました。

1 ページは、調査結果の概要になります。各教科の平均点をみますと、国語が府の平均並みではあるものの、すべての教科で府より下回りました。特に数学と英語は大きく下回っております。同一集団の経年変化、現3年生の府を基準とした1年生からの比較では、昨年度、2年生から今年にかけて、国語以外の結果が下降しております。前年度の3年生との比較においても、国語以外下降しております。

2 ページからは教科別の結果になっております。まず国語ですが、全体の平均点は大阪府を0.1点下回りました。得点率では、「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」の領域で大阪府を1ポイント上回りました。同一生徒集団による経年比較、対大阪府比では、2年生から上昇しております。

3 ページは、国語について、大阪府と比較して特徴的な問題について掲載しております。白丸となっているものは、正答率が高い問題となっております。青色の付箋をご覧ください。出題の趣旨としては、「手紙の後付けについて理解することができる」というもので、選択式の問題であります。続けて、問題7をご覧ください。府と比較して正答率が低く、無解答率も高い問題であります。問題としては、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができる」という問題で、記述式の問題となっております。問題を見ていただいても分かりますように、社会でもすぐに活用できるような問題となっております。

4 ページは、数学の結果になります。数学は平均点を大きく下回り、経年比較で見ましても、大きく下降しております。分類ごとに赤字となっているものは、大阪府を大きく下回っている分類でございます。特に、「数と式」「思考力・判断力・表現力」、問題形式としては、「短答式」の区分で低くなっております。得点別分布では、30点前後の割合が府より大きく、80点以上の割合が府より小さくなっております。分布が、ガタガタとしておりますのは、問題配点が1問あたり3点で、分布が5点刻みのため、このような形になります。これは、府も同様でございます。

5 ページは、特徴的な問題になります。国語と違い、府と比較して、正答率が低い問題、無解答率が高い問題のみの掲載になります。赤色の付箋をご覧ください。どちらも基本的な問題ですが、大阪府より正答率が低い問題となっております。緑色の付箋をご覧ください。こちらは無回答率が高い問題になります。「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」という記述式の問題となります。数学に限らずですが、記述式は課題であり、筋道を立てて考えることを授業場面で意識することが大切になってきます。

6 ページをご覧ください。今回のテストで英語は一番府の平均点と大きく開いた教科になります。同一生徒集団の経年比較でも下降しております。特に「書くこと」「知識・

技能」「記述式」の区分で府を大きく下回っております。英語に関しては、府と比較して、平均点を下回っていることもそうですが、同一生徒集団の経年比較で大きく下降していることが課題であります。

7ページは、特徴的な問題でございます。オレンジ色の付箋をご覧ください。正答率も低く、無解答率も高い問題であります。2問続けてですが、「与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英語を書くことができる」という趣旨の出題でございます。多くの文章に触れ、基本的な語句を理解する力を育成する必要があると考えられます。

8ページは、社会と理科になります。上段が社会、下段が理科になります。社会と理科につきましても、選択問題があり、選択問題ごとの結果を載せるようにしております。今年度、社会は、選択問題がありませんので、上段のみの記載になります。社会については、府平均点を下回っております。なお、経年比較については、選択問題により、平均点が変わりますので、掲載しておりません。下段は、理科の結果になります。今年度は、すべての学校でC問題を選択しておりますので、下段のみとなります。こちらも府と比較しまして、平均点は下回りました。

9ページからは、アンケートの結果になります。今年度から、質問項目が大幅に変更したため、経年変化の分析は行っておりません。質問項目は11問で、すべて掲載しております。右端、府との比較で◎と○がそれぞれ5、3ポイント上回っている、▽と▼がそれぞれ5、3ポイント下回っている結果となり、問10が府より5ポイント以上上回っています。逆に問4は5ポイント以上下回っております。

また、問題の中で、緑色に塗りつぶされているものは、大阪府がクロス分析をした結果、教科の平均点との相関関係が指摘された問題となります。つまり、これらの問題に対して、肯定的回答をしている生徒集団ほど、平均点が高かったということでございます。

結果の概要として、良かったところは、学級の雰囲気、他者との協働、挑戦心等において、7～9割程度の生徒が肯定的な回答をしており、7割以上の生徒が、日常的に短時間であっても読書をしているという結果でありました。一方、課題が見られるところとして、授業中に自分の考えを整理したりまとめたりする場面はある一方、大事な部分や要点を考えて読んだり、家で自身に必要な部分を考えて勉強したりすることに課題があります。テレビや、新聞、インターネットなど各ツールで社会的な出来事に関するニュースを見る機会が少なく、学習以外にスマートフォンやタブレットを日常的に長時間使っている生徒が多いところは、全国学力状況調査と同様の課題が見られました。

10ページ、11ページ、12ページはグラフの詳細になります。13ページは、結果の概要と今後の取組みになっております。説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いたします。

太田委員：色々意見を申しますが、その中で参考になることがあれば検討いただけたらと思います。まずはいねいに資料を作っていただけて見やすくなっているなど感じます。

さて、柏原市の学力は上がった時もありますが、大阪府より低い状態が続いており、近隣市の八尾市と比較しても、全ての教科において低くなっています。アンケート結果では学校の雰囲気はすごく良いとか肯定的な意見があつて、子どもたちはのびのびと育っているけれども、それが学力の結果に繋がっていないので、こういったアプローチをしていけばよいか今後の課題だと思います。

前も発言しましたが、新しい学びのスタイルを現場の先生方に学んでいただく機会をどうとっていくかがとても大事なかなと思います。この間、いくつかの学校で授業見学をさせてもらいましたが、グループ交流をして学びを深めるという、それはよいのですが、ほとんど考えもなしにグループになって、はい考えなさいといった場面がありました。まずはそれぞれが考えないといけないと思うので、やり方が違うのではないかと。府や市の指導主事に入ってもらって指導案を検討している中でもう少し深まるような気はしますが、研究授業の中でそれをしているということに課題があるのかなと思います。懸命に取り組んでおられるとは思いますが、取り組んでおられる授業自体が学力を伸ばすような授業になっていないのではないかと思います。

先日、旭ヶ丘小学校に行ったとき、書くことについて大きなテーマを出されてきました。書くこともテーマとしては悪くないと思いますが、柏原市は10年前に書く力の育成に取り組まれています。10年間同じことに取り組まれているのですかと。もう少し別のアプローチがあつてもよいのではないかと思います。

英語で書くことについて問題がありましたが、書くことというと、子どもたちに文章を書かせると書く力が伸びるといった考えはずれているように思います。理解があつて、答えが分かつてはじめて書けるのに、とりあえず文章を書かせることが書く力の育成につながるといった認識があるのではないかと感じました。他の学校に聞いても書く力の育成に力を入れているといった学校はたくさんありました。懸命に頑張っておられる先生方が、さらに効率的に学びが深まるような授業のスタイルをものにできるようにしていく必要を感じました。

あと、思考力・判断力・表現力の育成を学力向上推進委員会で掲げていますが、それでは具体的に何をしていくのか。「思考力・判断力・表現力を育成しなさい」といわれても何をすればよいのかなかかなか出てこないですね。具体的なことを提示した方が分かりやすいのではないかと思います。

アンケート結果からも、柏原市の学校は落ち着いているのが分かります。せっかく学校が落ち着いているのに学力が伸びないというのはもったいない気がします。学校によって学力に差があるとは思いますが、よい結果を出せているところはどのような取り組みをしているのか、生活背景の違いなのか等、分析は事務局でもされていると思いますが、そのような情報を共有していくことが大事ではないかと思います。

小室課長：ありがとうございます。今年度からは各校でどのような取り組みをして成果を上げているのかを共有する場面をかなり多く設けるようにしております。例えば国分中学校で成果の上昇した取り組みを学力向上推進委員会で発表したりしますが、そこで知ったことを各校に持ち帰り実行するとなると、効果が出るまで少し時間はかかるのかなとは

思います。同委員会でのアンケートでは、新たな着眼点を得られた等、肯定的な評価をいただいているところです。それをさらに広げていけるようにいたします。

近藤委員：太田委員もおっしゃっておられたように、アンケートから子どもたちの学校生活は落ち着いているのが分かり嬉しく思いますが、授業への関心の割合は少し低いのかなと思います。ご説明にもあったように、柏原市だけではないけれども、特に英語が不得意な子どもが多いので、興味を引くような楽しい授業をお願いしたいと思います。今はタブレットで昔みたいにとくさん書いて問題を解くというよりも、1問1答式でぼんぼんと数をこなしていくようなことができます。それは英語でも効果的だと思いますので、そういったものもフルに活用していってもらえたらなと思います。スマホでもできますが、家でスマホで、となるとなかなか難しいので、タブレットでのアプリ活用についてもアプローチできたら得点に繋がるのではないかと考えています。

また、数学ですけれども、習熟度別クラスはどのようになっていますか。

小室課長：学校によってですが、習熟度別にやっているところもあれば、少人数で対応しているところもあります。その時々で、チームティーチングを行ったりもしています。

西村委員：国語の問題で、選ぶことはできたけれどもメールの返事が書けなかったというところが、正解でないといけないという怖さとか、間違っただけでいけないとか、第一歩が出ないところが子どもたちを見ているとあるのかなと思っていて、タブレットを使うことによって間違ってもすぐに直せるし、挑戦するといったことが広げられると思うので、もっと活用してもらえたらなと思います。例えば、家でタブレットを使って作ったものを発表するとか、家でスマホを使っている時間が長いのであれば、その時間を一部置き換えてしまうような宿題を設定してもよいのかなと思います。かなり柔軟にしていくと、経験したことが力になってこれからの学習に繋がっていくと思うので、検討いただけたらなと思います。

あと、中間層から少し下のグループが多く、学年を経るにつれ下がっていることを見ると、とりこぼしていることが多いのだろうなと思います。中1の時はよかったけれども、中2、中3で嫌いになっていく子が多いので、子どもたちもやることが多いことを踏まえた上で、先生の数を増やさないと難しいのかもしれませんが、その子に応じた学習方法を細分化して設定してあげた方がよいのではないかなと感じます。

新子教育長：ありがとうございます。他にご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

田中委員：11月から学校の授業を見させていただきました。タブレットを使った授業は一定うまくいっているように見えたのですが、結果がこれだけ下がってしまったのは意外に感じているところです。何年前にも急に落ち込んだ時があって、その時はある特定の学校で数学の先生が頻繁に変わったことが影響してうまくいかなかったことがありました。今回、極端に結果が悪かった学校があるなら、その原因としてはどのようなものが考えられますか。

小室課長：学校ごとの分析は今行っているところですので、ここでは申し上げられませんが、私共も学校の授業を見に行き進め方や雰囲気が良いと感じた学校は、総じてよい

結果が出ております。相関関係がデータの形的にあるというよりは、感覚的にあるのではないかと感じておるところです。何が悪かった原因かはまだ分かりませんが、良かった原因はやはり授業の作り方のうまさが大きく影響していると考えております。

田中委員：教師不足が影響していることは考えられますか。

小室課長：ないと言いきれませんが、原因の一端である可能性はあります。一つの分析の観点といたします。

太田委員：せっかく学力向上推進委員会で色々と取組みをしていただいているということですので、モデルとなるような市町村の学校に市教委で見学に行かれて、それが柏原市全体に広がるような取組みも行うと刺激になるのかなと思います。小学校では研究授業等も多くありますが、中学校ではなかなか他の授業を見に行く機会がないように思いますので、機会を作ってあげてもよいのかなと。

直接学力とは関係ありませんが、柏原市は文化的にも落ち着いているだけに、あまりやり方を変えたくないという雰囲気があって、この間も柏原市内の校長先生と話していた時に、中3の修学旅行も制カバンでデジカメも使ったらいけないという学校もあって、それはだいたい遅れているように感じました。今は私服で修学旅行に行く学校が近隣市だけでなく、柏原市内でもあると聞いています。デジカメも使うとSNSに上げるから駄目といったことも、分かりますけれども、それを恐れているのは、新しいことを取り入れるのに抵抗されているのかなと。授業もそうですけれども、落ち着いているだけに変えたくないという文化があるのではないかと思います。

中平教育監：変える勇気も必要ですね。変えなくてもこれでいけているといった考え方は確かにあると思います。

近藤委員：最近では保護者への連絡事項はメールでしたり、学校としても変えて楽になる部分はあると思います。よさそうなものはどんどん取り入れていって欲しいですね。

西村委員：子どもたち自身がこういう勉強がしたいといった意見を汲み上げられるような、アンケートではない、もっと具体的な場というのはありますか。

中平教育監：学校長発信で出すアンケート等はございますが、現状、場を設けてはおりません。

西村委員：子どもたちにも色々な意見があると思うので、場を設けてみてもよいと思います。

新子教育長：ありがとうございます。他にご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第36号令和5年度中学生チャレンジテスト（3年生）の結果の公表内容については、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第36号令和5年度中学生チャレンジテスト（3年生）の結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。本日の議事案件は以上です。

(指導課より問題行動・不登校調査について、スポーツ推進課よりシティキャンパスマラソンについて報告)

以上で第12回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員